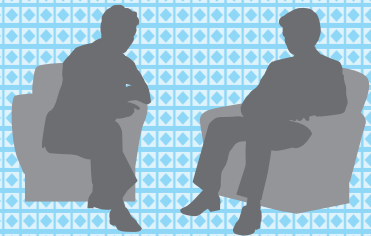


専門技術者 インタビュー



施工技術一筋に約30年

第19回は、岩崎正行氏（ヤンマーエネルギーシステム株式会社）を紹介する。

1. 現場で鍛えられる

岩崎さんは神戸に生まれ、昭和59年に神戸商船大学を卒業後、大学の先輩の勧めもありヤンマー機器サービス株式会社（現：ヤンマーエンジニアリング株式会社）に入社した。生まれ育った土地柄、船舶への憧れが強かったという。

入社後約1年間、船用燃料のコスト対策として、A重油とC重油を任意の比率で混合するオートブレンダーの開発に従事した後、陸用工務一課に異動となった。当時の陸用施工部門は人手不足で、担当者は皆多数の物件を掛け持ちしている状況であった。

「自分は船用の人間だと思っていたので意外でした。当時陸用の主任だった矢追さん（矢追光男氏。第14回インタビュー掲載者）が引き抜いたみたいです」と苦笑する。

異動後2年目からは、常時10件前後の物件を任せられるようになった。特に自治体からの直請物件の担当となったことが記憶に残るといふ。

岩崎さん24才、中学校の非常用発電設備工場の現場代理人でのこと。発電装置を積載した10tトラックが、搬入時に側溝に脱輪してしまった。岩崎さんは直ちに大型のラフタークレーンを手配しトラックの引き揚げを試みたが、当日の建築工事全てが中断してしまった。

「発電装置自体はパッケージ型で短期間の施工予定でしたので、建築工事への影響が余計に目立ってしま



施工技術の苦勞・やりがいを語る
岩崎正行さん

いました。役所や他の工事会社に対しては自分が前面に立って謝罪に行きました。」

若い頃は超多忙であり、社内での研鑽よりもむしろ、工事現場でのゼネコンやサブコンとの交渉や、協力会社との施工打ち合わせの中で業務をひたすら覚えて行ったという。



非常用発電設備の試運転調整を行う
（昭和63年右から2人目）



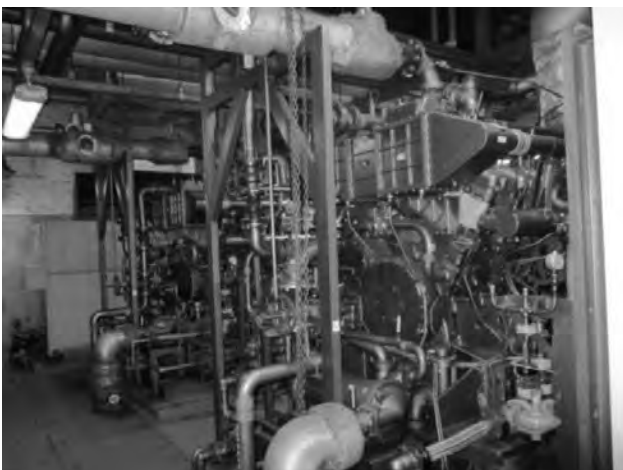
兵庫県警庁舎の建替工事の現場事務所にて（平成6年）

2. 神戸の復興を誓う

若手時代の代表物件として、平成元年、岩崎さん27歳の時、大阪市内のホテルに納入した非常用発電設備（2,000kVA×1基）がある。ホテルは既設のショッピングセンターの上に立つ建築物であったため、取り合い調整が大変苦労した物件であった。

「既設の発電設備との並列運転の制御に時間を要したり、発電機室の危険物規制についても消防さんと色々やり取りしました。各方面との調整力が身についた物件でした。」

同物件の施工実績が買われ、平成5年に直請受注した兵庫県警察本部庁舎新築に伴う発電設備工事（常用460kW×3基、非常用1,500kVA×1基）の現場代理人となる。地下タンク（20,000L×1基）基礎工事



兵庫県警庁舎の常用発電設備（460kW×3台）

も請負い、大規模工事になるため、平成6年には現場事務所を開き、岩崎さんらは現地に乗り込んだ。

建屋基礎工事が終わり装置の現場搬入を控えた平成7年1月、阪神大震災が発生する。当時岩崎さんは神戸市内に住居を構えており、焦土の中、震災翌日に現場事務所へ自転車で駆け付けた。工事関係者の安否確認を取り、資機材が散乱した工事現場の片付けから始めた。

3ヶ月後に工事は再開、その後は各JVの垣根を越え、施工関係者の団結は深まった。搬入・据付・試運転調整と、突貫工事で進んだ。

「工事関係者でタワークレーン2台に『みらい』と『きぼう』って命名したりしましてね。神戸の復興を誓いました。」

工事は当初予定通り平成9年1月に竣工した。

3. 設計～施工～保守の連携

大阪支社の専任部長となるまで、延べ200件以上の物件を施工してきた岩崎さんであるが、施工技術者として特に留意している点をお聞きした。

「施工にあたっては、まずは綿密な現場調査が重要です。設計側からの指示待ちではなく。情報を先回りで入手するのも大事。コーディネであれば熱源配管のシステム設計とか、運用フローや契約電力の設定とかね。そのことが品質・安全・工期の遵守に繋がると思う。」

竣工後の保守側への引き渡しの大切さも話された。



燃料タンクの膜厚を検査する岩崎さん（平成24年、中央）

「竣工したら『さようなら』では無く、特に常用発電設備については、竣工前から施設管理者の方が十分理解して運転を行えるようにトレーニング期間を設けたり、当社の保守部門とも連携してアフター対応に当たっています。」

4. 使命感を持って

専任部長になられてからは、主に大型物件の施工監督や各物件の安全指導をされている岩崎さんへ、社内での部下に対する指導方針をお聞きした。

「昔は『現場で覚えろ』って一言で済んだけれども、今は業務も細分化されているから、僕らの時代よりも、技術を、より伝授しなければならないと思っています。担当物件数についても、労力も考慮して、どの物件でも主担当と副担当を設け、特に30代の中堅社員に力をつけてもらうように指導しています。」

最後に、自家発電業界への提言や後進への助言を語って頂いた。

「以前は電気JVの下での施工がほとんどでしたが、最近は非常用も含め元請になることも多くなりました。特に竣工前の停復電試験では、自家発電設備が主役です。施設の照明が一瞬消えた後、自家発電源にて明かりが点灯した時は緊張しますが嬉しい瞬間です。使命感を持って業務に携わって下さい。」